

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年4月号



【海草振興局】4/8 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】
～スマート農機実演&農作業省力化研修会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1－2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～スマート農機実演&農作業省力化研修会を開催～	
2. 種ショウガ栽培講習会を開催	
3. 誘殺トラップによるカメムシ調査開始	
II 那賀振興局	3
1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」まん延防止に伴う巡回調査	
III 伊都振興局	4
1. 若手農業者がカキ育種勉強会を開催	
2. 農業技術講習会（野菜コース）開催	
IV 有田振興局	5－7
1. ウメ「南高」の摘心処理講習会を開催	
2. 令和3年度有田地方農業士協議会総会・研修会	
3. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催	
4. 令和3年産カンキツ類の着花状況調査を実施	
V 日高振興局	8－9
1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】 ～ウメ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修～	
2. 令和3年度「農トレ！ひだか」～第1回セミナー開催～	
VI 西牟婁振興局	10－13
1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】 ～ウメの摘心処理講習会を開催～	
2. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会および研修会を開催	
3. JA紀南ミョウガ研究会が栽培研修会を開催	
4. 田辺市立上秋津小学校で梅の授業を実施	
VII 東牟婁振興局	14
1. 三津ノ地域活性化協議会が田植え体験を開催	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

～スマート農機実演&農作業省力化研修会を開催～

4月8日、下津町農業士会（会長：榎本友紀氏）の令和3年度総会・スマート農業推進研修会がJAながみねしもつ営農生活センター及び有田市内農業用倉庫で開催された。

はじめに株式会社CuboRex 和歌山拠点長の芦原和希氏からスマート農機（ねこ車※）電動化キット「E-Cat Kit」の概要説明と実演が行われた。会員は自ら操作を体験し、農機の価格やバッテリー性能、ブレーキ機能の有無等、多くの質問があり、関心の高さがうかがえた。続いて、有田市初島町の畑中伸治氏が所有する「アイデア満載！らくらく倉庫」を視察し、畑中氏から倉庫の改良や工夫について説明を受けた。会員からは、キャスター付きの移動台の作り方や消毒用タンクの液漏れ対策、倉庫の屋根に設置している太陽光発電施設の利点等について質問があり、自分でもアイデア農機具の導入を検討したいとの声も聞かれた。

農業水産振興課では、今後も関係機関と連携してスマート農機等に関する研修会を定期的に行い、下津みかん産地における農作業の省力化につなげていきたいと考えている。

※一輪車、手押し車ともいわれている



スマート農機実演



農作業省力化研修会

2. 種ショウガ栽培講習会を開催

4月27日、JAわかやまグリーンステーションにおいて、JAわかやま、JAグループ和歌山農業振興センター、農業水産振興課が連携して、今年度種ショウガ栽培に取り組む生産者を対象とした栽培講習会を開催した。この取り組みは、和歌山市内産の種ショウガ生産拡大を目的に進められているもので、今年度は2名が新たに栽培に取り組む。

この日は、生産者9名に対し、当面の栽培ポイントと植え付ける種ショウガの選別や分割方法、植え付け方法などの講習を行った。

参加した生産者らは、4月下旬から5月上旬に順次、植え付けを進める予定。

今後は、和歌山市種生姜生産促進協議会（和歌山市、JAわかやま、JAグループ和歌山農業振興センター、和歌山県で構成）のメンバーで定期的に巡回指導を行い、種ショウガ生産拡大を目指していく。



栽培講習会

3. 誘殺トラップによるカメムシ調査開始

和海地方総合農政推進協議会（会長：和歌山市長 尾花正啓氏、和歌山市、海南市、紀美野町、わかやま農業協同組合、ながみね農業協同組合、和歌山県農業共済組合、和歌山市農業委員会、海南市農業委員会、紀美野町農業委員会、海草振興局で構成）では、4月27日、30日にフェロモンを利用した果樹カメムシの誘殺トラップを設置し、5月7日から調査を開始する。トラップにルアーと呼ばれるフェロモン剤を取り付け、カメムシを誘引、捕獲する。

調査地点は、和歌山市内1カ所、紀美野町内5カ所、海南市内4カ所の合計10カ所。

調査は、JAわかやま、JAながみね、海草振興局が共同で行い、週1回カメムシ誘殺数を確認する。

令和2年度のカメムシ誘殺数は年間6124匹で、前年度の2186匹より多くなった。また、カメムシの越冬量は、2頭で前年度と大きな差はなく、少ない傾向であった。

調査結果は、カメムシの防除指導に活用するとともに、農業水産振興課のホームページにて公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/chiiki/nogyoshinko/kajyukamemushi.html>)



カメムシトラップ設置

Ⅱ 那賀振興局

1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」まん延防止に伴う巡回調査

モモ・ウメ・スモモなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」は4月になると幼虫の活動が始まり、ミンチ状のフラスが排出される。そこで、那賀地方病害虫防除対策協議会（会長：下田和敬二氏、紀の川市、岩出市、農業共済組合北部支所、JAグループ和歌山農業振興センター、JA紀の里、農業試験場、かき・もも研究所、農作物病害虫防除所、那賀振興局で構成）では4月27日、28日に巡回調査を行った。

調査に先立ち、参加者20名で調査エリアと被害箇所を見分けるポイントを確認した後、9班体制で171園地のモモ147本、スモモ10本、ウメ14本を調査した。モモ産地への当該害虫の侵入が心配されたが、今回は確認されなかった。

6月以降になると成虫が飛び立つため、調査中に出会った園主にはチラシを配布して啓発を行った。当協議会では、引き続き管内農業者に対してポスターやチラシにより意識啓発を行っていく。



現地調査

Ⅲ 伊都振興局

1. 若手農業者がカキ育種勉強会を開催

4月6日、橋本市4Hクラブ（会長：大原康平氏）は、カキの育種方法を学ぶことを目的とした勉強会をかき・もも研究所で開催し、若手農業者9名が参加した。

かき・もも研究所の古田主査研究員から、カキの育種状況や交雑育種の方法について説明があった。

参加者からは、甘ガキの交雑育種の手順や花粉の採取方法などの多くの質問があり、関心の高さがうかがえた。

農業水産振興課では、今後も若手農業者の活動支援を行っていく。



古田研究員による育種方法の説明

2. 農業技術講習会（野菜コース）開催

4月14日、農業水産振興課では担い手育成と栽培技術の向上を目的に農業技術講習会（野菜コース）第1回（全3回）を開催し、17名が受講した。

当日は、久保普及指導員からトマト、ナス、キュウリなどの夏秋野菜の栽培のポイントと病虫害防除方法について説明があった。

受講者から、農薬の希釈計算や追肥方法について質問があった。また、「野菜の植え付け方法や施肥のポイントがよく分かった」などの感想が聞かれた。

当課では、今後も講習会を開催し、担い手育成と栽培技術の向上を図っていく。

IV 有田振興局

1. ウメ「南高」の摘心処理講習会を開催

4月9日、JAありだウメ部会（部会長：沼谷繁氏）がうめ研究所、農業水産振興課協力のもと、有田川町中井原のウメ園で新梢の摘心処理講習会を役員及びJAありだ営農指導員10名を対象に実施した。

摘心処理は4～5月に、約20cmに伸長した新梢を10cm程度残して摘心することで結果枝の増加が図られ増収効果が期待できる。また、冬季のせん定作業が省力できる技術でもある。

はじめに、農業水産振興課城村普及指導員から摘心処理について資料に基づき説明を行い、電動バリカンを用いて摘心の実演を行った。その後、生産者も体験し、「せん定鋏や手などで行うより作業が早い」、「この時期の摘心で収量が増加し、冬季のせん定やせん定枝の片付けも楽になるなら良い」との意見があった。

当課では今後もJAありだやうめ研究所と連携して、ウメの生産安定につながる摘心処理技術の導入推進に向けて普及活動に取り組んでいく。



ほ場での技術説明



電動バリカンによる摘心の実演

2. 令和3年度有田地方農業士協議会総会・研修会

4月16日、有田振興局において令和3年度有田地方農業士協議会総会及び研修会が開催され、各市町から農業士23名が出席した。新型コロナウイルス感染症が拡大傾向となる中、出席者を絞った開催となった。

総会では、令和2年度事業経過報告と収支決算報告、令和3年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認され、有田川町の森田氏が留任することとなった。研修会では、農業水産振興課小山普及指導員から「クビアカツヤカミキリ」の被害実態と生態について解説し、生息域拡大防止のための情報提供と協力依頼を行った。

出席者から、「ミカンには影響はないのか」、「防除ネットの巻き方は」などの質問があり、クビアカツヤカミキリへの危機感を共有することができたと考えている。



開会時の会長挨拶



「クビアカツヤカミキリについて」研修

3. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

女性農業者および就農して間もない農業者が、農業に関する知識や技術の向上と交流を図ることを目的とした「有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会」を、4月21日に果樹試験場で開催し、21名が参加した。

研修会では、果樹試験場環境部 武田主査研究員から「カンキツの病害虫について」、栽培部中地部長・栽培部研究員から「カンキツの接ぎ木について」の説明があった後、接ぎ木の実演があった。

参加者の大半が接ぎ木の経験があまりなく、穂木を削る作業にも時間がかかったが、全員が接ぎ木の作業を終えることが出来た。出席者からは、「難しかったが、実際に接ぎ木作業を経験できて良かった。来年も行って欲しい」などの意見が聞かれた。

農業水産振興課では、今後も有田農業女子プロジェクト・アグリビギナーの研修会や意見交換会開催を通じ、有田地域の農業者の育成を図っていく。



果樹試験場武田主査研究員による「カンキツの病害虫」の説明



果樹試験場栽培部 中地部長と研究員による「カンキツの接ぎ木」の説明・実演

4. 令和3年産カンキツ類の着花状況調査を実施

4月28日、カンキツ類の着花状況調査を実施した。当日は、JAありだ、農業共済組合、JAグループ農業振興センター、近畿農政局和歌山支局および県関係機関の職員29名が参加した。昨年に引き続きコロナ禍での調査となったため、感染対策を徹底したうえでの実施とした。

調査は、着花量や新梢の発生状況を目視（達観）により行うため、果樹試験場の樹を見本に、調査項目ごとの基準について全員で確認。その後7班に分かれて、温州みかん118園地と中晩柑類32園地の計150園地を巡回した。

結果、温州みかんの着花量は、極早生は平年並みであるものの、早生、普通品種は総じて少ない傾向で、園地や樹によるバラツキも大きかった。中晩柑は‘清見’が少なく、‘はっさく’‘不知火’は平年並みであった。

また、満開期は平年より6日程度早く、温州みかんの平均は5月5日頃と推定した。

これらの調査結果と、巡回で得た情報は関係機関で共有し、今後の栽培管理の指導に役立てていく。



巡回前に調査基準の確認



みかんの開花

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

～ウメ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修～

農業水産振興課では、うめ研究所、J A紀州等と連携し、ウメ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）による青梅生産性の向上に取り組んでいる。

カットバック処理は、樹高や着果位置が低下し青梅収穫等の作業が容易となるが、結果枝が減少し翌年の収量が低下する問題がある。

そこで、事前（春～初夏）に新梢の摘心処理（2回）を行い、徒長枝となる枝を結果枝化した上で、秋冬期にカットバック処理を実施することにより、収量の確保を図るとともに、冬季のせん定作業の省力化を図っている。

摘心処理（1回目）の現地研修会を、みなべ町西本庄地区（参加者7名）は4月15日に、日高川町松瀬地区（参加者10名）は4月19日に開催し、生産者へ処理方法の説明と充電式電動バリカンによる摘心処理体験を実施した。

参加者からは、「充電式電動バリカンを使うと作業時間が早い」、「自園でも試してみたい」といった意見が出た。

今後は、5月中下旬に摘心処理（2回目）、11月下旬頃にカットバック処理の研修会を開催する予定である。



摘心処理の体験（みなべ町西本庄）



摘心処理の説明（日高川町松瀬）

2. 令和3年度「農トレ！ひだか」 ～第1回セミナー開催～

4月20日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：有本雄紀氏）と農業水産振興課の共催により、若手農業者や新規就農者等を対象とした研修会「農トレ！ひだか」の第1回セミナーを印南町公民館大ホールで開催した。日高地方4Hクラブ員16名が参加した。

今回は、農業経営における人材確保や効率的な技術指導の方法等を学ぶことを目的とし、（公財）わかやま産業振興財団「和歌山県よろず支援拠点」コーディネーターの野際義久氏

及びコーディネーター（社会保険労務士）の二之段直哉氏による講演を実施した。

まず、野際氏から、「事業計画の必要性について」と題して、販売・生産計画に基づいた人員計画（採用・教育・評価）を行うことの重要性とその考え方について講義があった。

続いて、二之段氏から、「＜人材不足対応＞ミスマッチのない求人募集！」と題して、より具体的に、求人募集の準備、採用の際に必要な法律知識、人材のミスマッチを防止するための募集方法、採用後に人材を無駄にしないための教育方法等について講義があった。

参加者は熱心に聴講し、講演後には「自身の農業経営に役立てたい」、「今回の内容を農業に当てはめたより具体的な講義を聞いてみたい」等の感想があった。

今後は8月頃に第2回目、11～2月頃に第3回目の研修会の開催を予定している。



野際 義久氏による講演



二之段 直哉氏による講演

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】

～ウメの摘心処理講習会を開催～

ウメ「南高」の摘心栽培による着果安定を目的に、4月22日と23日に摘心処理講習会を田辺市新庄町、中三栖、上芳養、秋津川の4地区で開催した。摘心栽培に関心のある生産者41名とJA紀南営農指導員7名が参加した。

摘心処理は4月下旬と5月下旬の2回、新梢を10cm程度残して摘心することで結果層を増やすとともに、せん定作業の省力化が期待できる。しかしながら、「5月下旬の2回目の処理が農繁期で取り組みにくい」と労力面での課題があり、導入面積が伸び悩んでいる。

そこで、技術実証園や展示園において、3年前から充電式電動バリカンを用いて省力的に摘心処理を行えることを紹介し、取り組み面積の拡大を図ってきた。

摘心樹と慣行樹の着果状況の違いを確認したうえで、亜主枝や側枝の背面から発生した新梢の先端部分を、農業水産振興課前田普及指導員がバリカンで刈る方法を実演した。

また、実際に数人の生産者に体験してもらい、「新梢の赤い部分がなくなるように処理すればよいので分かりやすい」、「基部から発生した新梢は長くなりすぎているのでどう処理すればいいのか」との感想や質問があった。

当課では、新たに取り組む普及指導計画で、ウメの摘心処理が着果安定対策の一つとして有効であること、数年取り組めば必ず結果が現れることを現地講習会等の機会を通じて引き続き周知し、更なる取組面積の拡大に努めていく。



摘心処理の実演（中三栖）



成木樹の摘心処理（秋津川）

2. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会および研修会を開催

4月15日、西牟婁地方農業士連絡協議会（会長：廣畑幸男氏）は、西牟婁振興局において、会員及び行政関係者等46名が出席し、総会および研修会を開催した。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、役員や理事（支部長）を中心に、出席者を絞っての開催となった。

総会では、令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画(案)ともに原案のとおり承認された。また、今回の役員改選で谷本喜久氏が会長に就任し、新体制でスタートした。会員は146名となった。

研修会では、3月末に定年で退任となった指導農業士3名から、自身がこれまで取り組んできた農業経営について、農業に対する思いや将来への意気込み、趣味や特技の話など、時折、ユーモアを交えながらの講演があり、会員は熱心に聴き入っていた。

当課では、今後も新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、農業士会活動を支援していく。



総 会



新役員紹介



研修会

3. J A紀南ミョウガ研究会が栽培研修会を開催

J A紀南ミョウガ研究会（会長：山本晃一氏）は、4月16日に栽培技術の向上を図るために研修会を開催し、生産者7名とJ A紀南及び振興局関係者も出席した。

ミョウガは、梅など果樹との複合経営品目のひとつとして、田辺市の山間部や上富田町において栽培され、主にJ A紀南で塩漬け（一次加工）を行い、県外の漬け物加工業者へ販売されている。

研修会では、令和2年度の根茎腐敗病に対する薬剤防除実証試験の取り組み結果について、J A紀南の中地営農指導員及び農業水産振興課の谷普及指導員から説明があった。

今回の試験では、病害発生の遅延や軽減は見られたが、発生圃場の土壌消毒や根茎の薬剤処理、定植後の薬剤散布を行っても病害発生を抑制することは出来なかった。ただ、発生圃場から採取した根茎を薬剤処理し、未発生圃場に植え付けると2年経過した現在でも病害の発生は見られていない。

今後の対策として、同病害は梅雨明けごろから地温の上昇とともに発生が見られ、8月の高温期に多発してくるので、薬剤散布とともに地温を下げる対策や病害未発生圃場への植え替え、7月上旬から収穫可能な夏ミョウガの作付け割合を増やすなどが考えられる。

試験圃場の園主からは、「やっかいな病害だが、薬剤散布することで無処理と比べると病害の発生は抑えられているように思う。未発生圃場への植え替えを進めながら、少しでも病害を減らせる方法を検討したい」との意見があった。また、他の会員からは、「今のところ圃場で病害の発生は見られない。植え付け時に根茎の消毒を行うようにしている」、「夏ミョウガは直売所への出荷のみであり、秋ミョウガのように出荷できれば」などの意見があった。

当課では、ミョウガ研究会やJ A紀南と連携しながら、引き続き根茎腐敗病対策の実証試験に取り組み、本病の防除体系と高品質なミョウガ栽培技術の確立を支援していく。



栽培研修会

4. 田辺市立上秋津小学校で梅の授業を実施

4月21日、田辺市立上秋津小学校の6年生（25名）を対象に梅の授業を開催した。この取り組みは、地域の主産業である農業について、各学年でテーマを決め、年間を通して学び、体験することで、子供たちに農業の素晴らしさを伝えるとともに理解を深めてもらうことを目的に、平成11年から始まり今年で23年目を迎える。

毎年、学校と地域の農家、JA紀南青年部、公民館、西牟婁振興局等で組織する農業体験学習支援委員会の委員が協議し、活動計画に基づいて実施している。

最初に、前田普及指導員から梅の産地や生産量、年間を通じた農作業、梅干しができるまでの流れ等について、スライドを用いて説明を行い、その後、事前に児童から提出のあった約30の質問について、前田普及指導員がひとつずつ丁寧に回答すると、児童らは真剣な表情で熱心にメモを取っていた。

また、事前質問の他に、児童からは、「なぜ、梅でインフルエンザの予防ができるの」、「梅の収穫量は年々増えているの」、「梅は英語で何ていうの」などの質問が飛び出し、梅への関心がより深まったようであった。

当課では、今後も関係機関と連携しながら、地域農業を軸とした食育を推進していく。



梅の授業

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 三津ノ地域活性化協議会が田植え体験を開催

4月27日、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保氏）及びJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町の水田（10a）で近畿大学附属新宮中学校1年生（46人）を対象に田植え体験を開催した。これは、生徒たちが農作業体験を通じて農業や食物に関心を持ち、その大切さを知ることを目的としたもので、平成29年から実施している。

下阪会長挨拶の後、当課浅井普及指導員が和歌山県の農業や水稻の栽培について説明を行った。続いて、協議会メンバーらが苗の植え方を説明し、生徒全員が横一列に並び、田植えを行った。

生徒からは、「足が抜けない」、「田植えは楽しい、収穫も楽しみ」等の声があり、農業や食物への関心が高まったようであった。

8月下旬には、今回田植えした水田で収穫体験を行い、収穫した米は文化祭で「近大新中米」として販売する予定である。



水稻栽培の説明



田植え

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489